

◆病院の理念◆

社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに良識ある人間性豊かな医療人を育成します。

新年のご挨拶

病院長 内山 和久



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様方におかれましては、よき新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。本年も本院をよろしくお願いいたします。

さて、昨年は、6月に高槻市を震源とする大阪府北部地震、7月には西日本豪雨、9月には台風21号が猛威を振るい、高槻市をはじめ西日本各地が甚大な被害を受けました。被災された方々におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

本院は、大阪府北部地震において一部の施設が被災しましたが、すでに完全復旧しており、安心してご利用いただけます。また、西日本豪雨や台風21号では、甚大な被害を受けた被災地で、本院の災害派遣医療チームが診療支援活動に従事し、大阪府医師会からも表彰していただきました。

一方、本院の事業では、昨年6月に関西BNCT共同医療センター（地下1階・地上3階、延べ床面積4,028㎡、1階：BNCT治療室、2階：PET-CT検査室）を本学敷地内に開院しました。次世代の有力ながん治療法として注目されているBNCT（ホウ素中性子捕捉療法）とは、加速器から発生する中性子とホウ素の反応を利用し、正常細胞にほとんど損傷を与えずにがん細胞のみを選択的に破壊する画期的な治療法で、現在悪性脳腫瘍と頭頸部のがんに臨床効果が認められています。今後、適応疾患の拡大や、再発がん、浸潤がんなど治療困難ながんにも効果が期待でき、外科治療を行わないので患者さんのQOL向上にも貢献できます。

2016年3月に竣工した中央手術棟は、増加傾向をたどる手術症例に対応できるように20室の手術室と16床のICU、そして4階には胸部外科病棟、5階には消化器外科病棟を配置しています。手術室にはハイブリッド手術室や内視鏡外科手術室、ロボット手術室などの最新設備が施され、年間11,000例を超える手術を施行しており、今後さらに症例増加が見込まれています。

また、現在、大阪医科大学創立100周年事業として進めております病院新本館建築が、本年から本格的にスタートします。病院新本館はA棟とB棟からなり、現在の3号館から臨床講堂棟を取り壊して建設します。病院新本館のコンセプトを『スーパースマートホスピタル』とし、高度先進医療の実践と安全で快適な医療環境を整備し、高い機能と設備を備えた病院づくりを行います。病院新本館建築には現行施設の移転や建物の取り壊し工事等があり、工事期間中は患者さんや関係者の方々に、ご不便をおかけしますが、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

最後に、われわれ職員一同は、今後とも日々丸となって高度先進医療を推進するとともに、患者さんご家族に安心と安らぎを与えられる病院を目指しますので、本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

迎春

地域中核病院として、 特定機能病院として、 信頼に値する 医療看護を目指して

看護部長 西山 裕子



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

本年は「亥」年、十二支の12番目。最後の干支になります。「亥」には生命の力が閉じた状態であることを表しているため、今の反映している状態を維持するように守りに徹したほうが良い年とされているそうです。また無病息災で病気にはなりにくい年とされていますが、決して無理をなさらないようにお過ごしください。また本年は、「平成」から次の年号にバ

市民公開講座

平成30年9月15日開催

よくある腰痛？ 一怖い腰痛—

大阪医科大学 整形外科教室 講師 馬場 一郎



腰痛を生じる原因はさまざまです。整形外科が治療の主体となる脊椎骨折や腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアなどが代表的です。しかしながら、ガンの脊椎転移や化膿性脊椎炎、脊髄腫瘍などの怖い疾患も紛れていることがあるので注意が必要です。数週間以上続いて増強してくる腰痛、安静時にも強い腰痛がある、下肢のしびれ感や力が入らない、ガンの既往がある、もしくは治療中である、発熱があるなどの場合には血液検査やMRIなどは必須となります。このような症状に該当するときには、ためらわずに整形外科を受診して精密検査を受け、早急に診断をして治療を受けることが重要です。もし診断、治療が遅れて麻痺が出現すると、歩行ができず車椅子生活となり、排尿排便障害（オムツが必要になる）も出現し不可逆となります。麻痺が完成してから治療を行っても回復することはありません。早期に正確な診断を受けて適切な治療を開始すれば、麻痺を回避できる可能性は十分にあります。脊髄腫瘍は手術での摘出、ガンの脊椎転移であっても放射線治療や骨修飾薬の投与、手術などの治療方法がありますので、ぜひ整形外科にご相談ください。



MRIで確認された「脊髄を強く圧迫する髄膜腫」腰痛、両下肢のしびれ感、筋力低下のため立位歩行不能で尿漏れもあった。手術による摘出を行い歩行可能となり尿漏れも消失した。

平成30年11月17日開催

話題てんこ盛りの放射線治療

大阪医科大学 放射線医学教室 講師(准) 新保 大樹



放射線治療の進歩

放射線治療は、近年目まぐるしい進歩を遂げています。これまでは放射線治療ができなかったがんにも適用になったり、腫瘍病巣に集中的に放射線を照射することが可能になったりしたことで、より高い治療効果が期待でき、副作用も少なくなってきました。放射線治療により手術と同等以上の治療効果が得られた報告も増えてきます。また、手術、化学療法と放射線治療を組み合わせることで、がんを治せる可能性が高まってきています。そのため、放射線治療を受ける患者さんは増加していますが、とくに最先端の技術を用いた放射線治療を選択する方が急増している状況です。

最先端の技術を用いた放射線治療

本院ではIMRT（強度変調放射線治療）やSBRT（体幹部定位放射線治療）と呼ばれる高精度治療や小線源治療を行っています。治療時にはIGRT（画像誘導放射線治療）という照射精度を向上させる手法を用いています。また、附属三島南病院にはサイバーナイフというピンポイント照射に特化した機器が導入されています。大阪市内には2017年に陽子線クリニック、2018年に重粒子線センターが治療を開始しました。本年6月には、大阪医科大学関西BNCT共同医療センターが開院し、来年には臨床試験・治験が開始される予定です。

大阪医大附属病院での取り組み

何かと話題てんこ盛りの放射線治療ですが、実際にどのような治療を行うかは、患者さんの状況に応じて異なり、本人やご家族と相談のうえ、担当医や放射線治療医が判断します。高度な医療を提供し、効率的でより安心、安全に業務を行うには、医師、医療物理士や放射線技師、看護師を含めたチーム医療が非常に大切です。本院では多職種連携で一丸となって皆様のお役に立てるよう取り組んでいます。

情報コーナー